

みずいろ通信

Vol. 8

2021年
4月発行



早いもので令和3年度に突入しました。思い返すと「コロナ」に終始した1年間だった気がします。何をするにもコロナの隙を縫って何とか形にすることしかできなかった。そんな令和2年度でした。私たち4S（里親支援専門相談員）の活動も制限を余儀なくされ、これまで当たり前にしてきた活動が出来なくなりました。

本号ではコロナ禍での施設の様子などを少しご紹介致します。

お家時間で字が書けるようになった年中さん

コロナ禍では、施設行事が中止になることが多く、人が集まる場所へはもちろん、登校以外も不要不急の外出が制限される中、子どもたちにも感染症防止対策に協力してもらいました。施設の中でいることが多い幼児さん、年長さんが小学校に進学する準備として学習を始めるのをきっかけに、見よう見まねで机に向かったら、知識欲が開花。文字に興味をもって練習し始めた年中のMさん。最近決まった（まだ会ったことがない）週末里親さんに「いっしょにあそぼうね」と手紙を書き、ポストに投函。週末里親さんとの交流がなかなかできないのですが、こうしてコミュニケーションツールを一つ身に着け、「文通」が始まりました。これまで、なかった人とのつながりを心待ちにし、もらった手紙を大切にしている姿は健気でそしてほほえましく思います。早く週末里親さんと会える日が来るといいねMさん。

●養育里親さんと子どもAくんのお話●

マッチングの時には固まっていたAくん。でも、何回も実習を通じて会う回数が増えていくと段々と表情が和らいでいました。まだお喋りできない月齢のAくんですが、朝になると里親さんが来ていた方の部屋をじっと覗いていました。「今日は来ないのかな？」そう思っている気持ちがその行動から読み取れました。里親さんも回数を重ねるごとにAくんの気持ちを少しずつ読み取れるようになってきていました。少しずつ気持ちが通じてきているのがわかり、乳児院の職員も嬉しくなりました。Aくんのお別れ会に参加されると里親さんは感動され涙をこぼされました。ついに来たお別れの日には、職員の後追いをすることなく笑顔で手を振って行きました。里親さんが関係作りをしっかりしてくださったからだと思います。

お家に帰ると可愛いワガママを言って、里親さんにたくさん甘えているそうです。

乳児院では感染予防対策をしながら、特別養子縁組里親さんや養育里親さんの実習を行っていました！

様々な月齢の子ども達が乳児院を巣立って行きました。初めて会うマッチングの時には里親さんだけでなく、子どもも緊張しています。その日からお互い様子を伺いふれあっていき、関係を深めていきます。日々のふりかえりでは「人見知りをしていたあの子が、今日は私に頼ってくれた！」「ご飯を完食してくれた！」など様々なエピソードが里親さんから出ます。

日々過ごしていく中で、私達4Sは里親さんが感じてくれたことなど一緒に共有したり、一緒に悩んだりしています。里親さんも始めは戸惑いが多くわからないことだらけのようでしたが、次第に親の顔つきになっていくことがほとんどです。子どもへ「ママにしてくれてありがとう」と涙ぐみながら言われる方もおられました。

実習を終えられた後でも、家庭訪問へ行きフォローをしていきます。乳児院ではしなかった流行りのダンスを披露してくれるなど、子どもの成長を見られるのも楽しみです。



巣立ち

3月は別れの季節。施設を出て進学する子、就職する子がいます。

現場で働き、巣立ちを見届ける同僚に話を聞きました。

Aちゃんは0歳から施設で育ち、18年間「家庭」を知らないまま社会に出ます。

施設を退所（卒園）する喜びと不安が入り混じった感情で過ごす時期でもあります。

社会に出ると、子どもにとって口うるさくも頼もしい(?)施設職員がいなくなることは子どもと同じぐらい職員も心配になってしまいます。

施設でできることは限られています、Aちゃん自身の育つ力で新しい世界でも頼れる大人、信じられる人を見つけたいと願うばかりです。

でもやっぱり淋しくなったり、怖くなったり、嬉しいことがあったときに、Aちゃんにとって施設が頼れる場所であり、人であってほしいと思います。その時は是非、「あなたは昔こんなだったよ」と幼い時の思い出を語ってあげたいと思います。

心配は毒ガスです。心配しすぎるとお互いが苦しくなってしまいます。基本信じて程よく心配...くらいがいいんでしょうか。

子どもたちの新しい未来をそっと見守り、応援したいと思います。

Aちゃんは就職が決まり卒園、一人暮らしを始めました。引っ越しを手伝った次の日「せんせー、昨日はありがとう。さっきパンを焼いて朝ごはん食べたよー。隣の人の足音が聞こえるから、自分もそっと歩こうと思う。」と連絡をくれました。寂しい思いもするだろうけれど…「Boys be ambitious」



里親さん宅への訪問ができない期間、お電話でお話を聞かせてもらいました。

里子ちゃんに電話を代わって、一生懸命お話してくれました。

電話は人の話を聞いて、そのあと自分が話す。簡単なようで特に小さな子には難しいことですが「あのね、あのね」と一生懸命話すタイミングを見つけようとする声がとてもかわいらしかったです。



* 乳児院の子どもたちの様子 *

コロナ禍で外出が減った子ども達ですが、大念仏乳児院内でも楽しめる行事を職員のみinnで考えました。正月には手作りで神社を作りました！そこでは子どもたちに紙のお金を渡してお賽銭の真似事をしたり、屋台に似せたくじ引きをしてお菓子を貰ったりと工夫がたくさんされていました。子ども達は嬉しそうにニコニコして楽しんでいました。

2月には院の近くの農園で大きい子たちが野菜収穫の体験をしました！土からの収穫はあまりない体験で楽しかったようで、夕食の時には「だいこんある？」など掘った野菜のことを気にかける姿が見られました。あると「やったー！」と声を出して喜んでいました。

3月にはひな祭りを行いました。大きい子どもたちは紙コップを使って可愛い雛人形を作っていました。自分だけの雛人形を作り飾って楽しんでいました！おやつはひな祭りにちなんだ可愛い苺を使ったおやつが出てきました。子ども達が楽しく過ごせるようこれからも工夫をしていきたいですね。

♪大人と子どもたちの絵馬を飾っています♪



♪今後のイベント情報♪

- R3年度も里親相談会を実施します。
 - ・申し込みは不要です。
 - ・日程が決まり次第お知らせしていきます。
- 今後も随時イベントをお知らせしていきたいと思ひます♪

里親に興味がある人
お待ちしております！



❀ 編集後記 ❀

令和3年度から、市内3か所（各こども相談センターの管轄区域ごと）に「里親支援機関」が出来、より里親さんへの支援が手厚くできることになりました。一人でも多くの子どもが「家庭」で暮らせるように、自分たちにできることを探しつつ頑張っていきます。

大念仏乳児院 原田 高津学園 黒田

●お問い合わせ先●

一般社団法人大阪市児童福祉施設連盟
里親支援委員会

(事務局：聖家族の家 06-6699-7221)